

イギリス UWC アトランティックカレッジ 西尾地博さん**留学期間 R 5.8～R 7.5（2 年間）****1 留学の成果**

今年 5 月 23 日に UWC アトランティックカレッジを卒業し、2 年間の留学を終えました。春季のプロジェクトウィークではセーリングをして、今までの人生で一番楽しい 1 週間となりました。ロンドンからセーリングの旅に出て船の中で過ごす中で、今まで話したことあった人ともなかった人とも話す良い機会でした。UWC を通じて私が痛感したのは「自分が自分であること」の大切さです。UWC では、多種多様なバックグラウンドを持つ人が集まる以上、政治や性についての価値観は人それぞれ大きく違います。留学当初は、性や人種に関する会話は少し避けてしまっていました。少しずつ話してみると、いわゆるコンフリクトマネジメントにおいて重要なのは、コンフリクトそのものを避けることより衝突がある前提でそれにどのように対応するかが大事だと考えるようになりました。一度コンフリクト前提の考え方になると「自分が自分であること」を大事にできると思います。多様性理解、異文化交流が一方通行であってはいけない事を知っていれば、相手が持つ違いを受け入れようとする努力だけでなく、相手に自分の違いを受け入れさせる努力が必要になります。このような双方向的な努力は歴史を見ても達成された例は少ないと思います。ほとんどは一方的に相手に受け入れさせる侵略か、相手を受け入れる服従によってなされてきたように思います。私は自分の大切な相手を侵略することも侵略させてしまうこともしたくないので、受け入れることも、受け入れさせることも大事にしてきました。その中で自分が譲歩、妥協できる範囲と、譲れないことの境界が、はっきりしてきたように思えます。

はっきりと譲れない芯を大事にこれからも精進していきたいです。

2 履修状況、課外活動等**（1）履修科目**

- ・ System Transformation Pathway
- ・ Physics (Standard Level)
- ・ English B (Higher Level)
- ・ Economics (Higher Level)
- ・ Mathematics (Higher Level)

（2）課外活動および受賞歴等

- ・ United Kingdom Mathematics Trust: Gold Certificate
- ・ RYA Competent Crew
- ・ Ceramics
- ・ Football

3 今後の活動予定

留学先では 2 年間、クラブ活動を通じて陶芸を学びました。現地での制作や作品発表

を通して、土や釉薬に対する考え方、造形のアプローチ、そして工芸を取り巻く文化的背景が日本とは大きく異なることに強く刺激を受けました。

その中で改めて、日本の陶芸が持つ奥深さや精神性の高さに気づき、帰国後に各地の焼き物の歴史を知る中で、越前焼に強く惹かれるようになりました。

こうした海外での経験を、越前焼をはじめとする地域の伝統工芸の発展に還元したいと考えています。例えば、海外販路の開拓や、異なる文化圏に向けた表現や発信の工夫など、外から見た視点を活かして、グローバルからローカルへの橋渡しができると思っています。

伝統を受け継ぐだけでなく、それを次世代や異文化へとひらいていくことで、地域に根ざした工芸に新たな可能性をもたらすことが、私の目指す役割です。

4 ふるさと納税寄付者へのメッセージ

この2年間は、私にとって人間的に大きく成長することができた、かけがえのない時間となりました。

このような貴重な留学の機会は、皆様のあたたかいご支援があってこそ実現したものです。心より感謝申し上げます。

この経験が無駄にすることなく、学んだことを次の世代へとつなげていけるよう、今後も努力を重ねてまいります。

5 記録写真



Amnesty Head Shave のイベントで校長と。



授業終了を記念して、寮のみんなと。



セーリング中に友達と景勝地「ニードルズ」と。



校内で毎年選ばれる「最高の男友達」を受賞しました。